10. その他（景観・歴史資源等）

10-01　観光の状況
10-02　景観・歴史資源等の状況
10-03　レクリエーション施設の状況
10-04　公害の発生状況

調査項目：10-01　観光の状況

■調査目的　　都市における交流人口の基礎資料として観光の状況、動態を把握する。

■収集方法

【ａ収集項目】　観光入込客数（目的別、居住地別、宿泊・日帰り別等)、観光消費額（目的別、居住地別、宿泊・日帰り別等)、宿泊施設総数、収容人数、客室数

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　行政区域、観光地点毎

【ｄ収集方法】　・庁内資料から収集。
・宿泊施設総数、収容人数、客室数のデータ作成方法については、国土数値情報ダウンロードサービス（不動産・建設経済局）の宿泊容量メッシュデータが参考となる。
・上記以外で、都道府県、指定都市、中核市に関しては、厚生労働省の「衛生行政報告例」の最新年次のデータが参考となる。

収集データの例
国土数値情報宿泊容量メッシュデータ（2010） https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P09.html（URL❶）
e-Stat 衛生行政報告例第４章生活衛生／旅館・ホテル営業の施設数・客室数及び簡易宿所・下宿営業の施設数・許可・廃止・処分件数，都道府県－指定都市－中核市（再掲）別 https://www.e-stat.go.jp/statsearch/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450027&tstat=000001031469&cycle=8&tclass1=000001222480&tclass2=000001222481&tclass3=000001222482&cycle_facet=tclass1%3Atclass2%3Atclass3%3Acycle&tclass4val=0&metadata=1&data=1（URL❷）

【ｅ留意事項】　・都道府県ごとの調査項目にならって整理する。
・収集データの例①（宿泊容量メッシュデータ）の年次が 2010 年と古いことに留意する。

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
・複数の原典データを元に作成している場合は項目ごとに分けて記載。 ・一括して同じ場合は「－」を記載。	○庁内資料、国土数値情報等、e-Stat の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先が URL の場合は d.収集方法の「収集データの例」の URL を参照。

【ｇ調書】

＜調書＞

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

宿泊容量メッシュ	施設数（ホテル）	施設数（旅館）	施設数（公共宿泊施設）	施設数（民宿）	施設数（ペンション）	施設数（宿坊）	施設数（コテージ・貸し別荘・山荘）
…							
…							

（つづき）

施設数（ユースホステル）	施設数（カプセルホテル）	施設数（研修センター）	施設総数	収容人数	客室数

＜コードリスト＞

・調書の各項目のコードは下表のとおりとする。

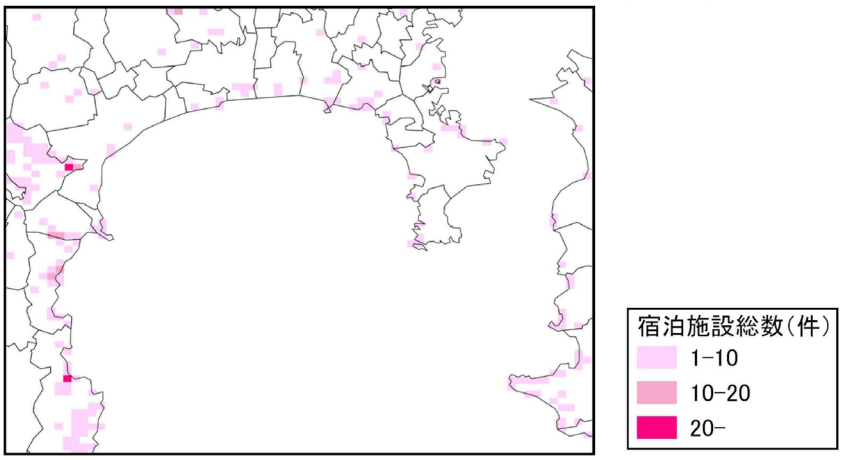
コード	説明
1	ホテル
2	旅館
3	公共宿泊施設
4	民宿
5	ペンション
6	宿坊
7	コテージ・貸別荘・山荘
8	ユースホステル
9	カプセルホテル
10	研修センター

【ｈ位置図】

＜宿泊施設総数メッシュ図＞

・国土数値情報の宿泊容量メッシュデータ（不動産・建設経済局）を参考とし、宿泊施設総数、収容人数、客室数に関し、3 次メッシュ単位の図面を作成する（作成イメージは下図を参照）。

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））



【ｉ集計表】

＜集計表＞

○観光目的

（観光入込客数・消費額）

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

年次	入込客数		観光消費額	
	県内居住（宿泊/日帰）	県外居住（宿泊/日帰）	県内居住（宿泊/日帰）	県外居住（宿泊/日帰）
	人/　人	人/　人	円/　円	円/　円
○年				
○年				

○ビジネス目的

（宿泊施設の状況）

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

年次	宿泊施設総数	収容人数	客室数
	件	人	室
○年			
○年			

＜コードリスト＞

・集計表の各項目のコードは下表のとおりとする。

○観光目的

（観光入込客数・消費額）

コード	説明
1	入込客数/ 県内居住/宿泊
2	入込客数/ 県内居住/日帰り
3	入込客数/ 県外居住/宿泊
4	入込客数/ 県外居住/日帰り
5	観光消費額/ 県内居住/宿泊
6	観光消費額/ 県内居住/日帰り
7	観光消費額/ 県外居住/宿泊
8	観光消費額/ 県外居住/日帰り

調査項目：10-02　景観・歴史資源等の状況

■調査目的　　都市の個性・魅力を創出する景観要素や歴史・文化的要素を明らかにし、保全・活用によるまちづくりの基礎資料とする。

■収集方法

【a 収集項目】　次に示す景観・歴史資源等の場所等

景観地区、風致地区、歴史的風致形成建造物、国宝・重要文化財（建造物）、重要有形民俗文化財、史跡、名勝、重要伝統的建造物群保存地区、伝統的建造物群保存地区、国登録有形文化財（建造物）、埋蔵文化財包蔵地、景観重要建造物、景観重要樹木、その他都道府県や市町村が選定した資源

【b 収集範囲】　行政区域

【c 収集単位】　資源毎

【d 収集方法】　・庁内資料から収集。

※国土数値情報ダウンロードサービス（不動産・建設経済局）において、(財)日本交通公社が事務局として設置した「観光資源評価委員会」が検討・選定し作成した「観光資源台帳」に掲載されている観光資源のうち、評価ランクがA級以上の観光資源データが活用可能

収集データの例
国土数値情報観光資源データ（2014） https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P12-v2_2.html（URL❶）

【e 留意事項】　・国、都道府県、市区町村、学会、その他民間団体等から指定されている資源を幅広く収集する。

■作成項目

【f 原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
・複数の原典データを元に作成している場合は項目ごとに分けて記載。 ・一括して同じ場合は「－」を記載。	○庁内資料、国土数値情報等の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。

※原典データの入手先がURLの場合はd.収集方法の「収集データの例」のURLを参照。

【g 調書】

＜調書＞

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

観光資源ID	観光資源名	都道府県コード	行政区域コード	種別名称	所在地住所	観光資源分類コード※
・・・						

※国土数値情報の分類表に基づき記入
(https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/codelist/tourismResourceCategoryCd.html)

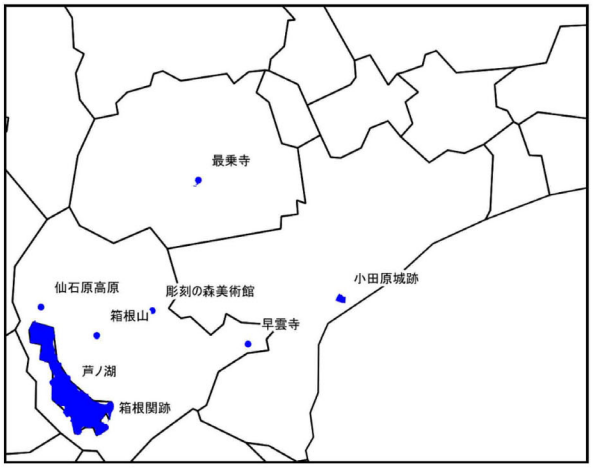
＜コードリスト＞

コード	説明
1	自然（行催事・イベント）
2	歴史・文化
3	温泉・健康
4	スポーツ・レクリエーション
5	都市型観光・買物・食
6	その他

【ｈ位置図】

＜位置図＞

・資源の名称・位置がわかるように地図上に図示する（作成イメージは下図を参照）。



（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

【ｉ集計表】　　－

調査項目：10-03　レクリエーション施設の状況

■調査目的　　自然環境の保全及び公共空地系統の整備計画策定の資料とするため、屋外レクリエーション施設の現況を把握する。

■収集方法

【ａ収集項目】　施設名、設置主体、施設規模、利用者数

※対象施設：野球場、陸上競技場、サッカー場・ラグビー場、テニスコート、ゴルフ場、水泳プール、その他スポーツ施設、ボート場、ヨットハーバー、海水浴場・潮干狩、遊園地、動物園、植物園、競輪・競馬場、観光有料道路、サイクリングコース、ハイキング・登山コース、自然歩道、キャンプ場等

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　施設毎

【ｄ収集方法】　・庁内資料、河川水辺の国勢調査結果、公園管理者・河川管理者による既存調査から収集。

収集データの例
庁内資料
河川水辺の国勢調査結果
公園管理者・河川管理者による既存調査

【ｅ留意事項】　－

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
・複数の原典データを元に作成している場合は項目ごとに分けて記載。 ・一括して同じ場合は「－」を記載。	○庁内資料等の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。

【ｇ調書】

＜調書＞

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

位置	施設名	施設種別	設置主体	施設規模（㎡、km）	利用者数（人/年）
①					
②					
：					

※施設種別は、収集項目の対象施設に従う

＜コードリスト＞

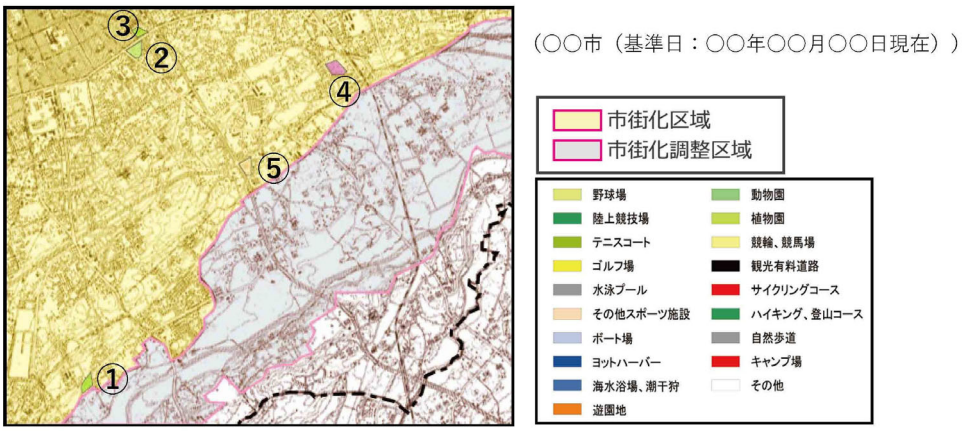
コード	説明
1	野球場
2	陸上競技場
3	サッカー場・ラグビー場
4	テニスコート
5	ゴルフ場
6	水泳プール
7	その他スポーツ施設
8	ボート場
9	ヨットハーバー
10	海水浴場、潮干狩り

コード	説明
11	遊園地
12	動物園
13	植物園
14	競輪、競馬場
15	観光有料道路
16	サイクリングコース
17	ハイキング、登山コース
18	自然歩道
19	キャンプ場
20	その他

【ｈ位置図】

＜位置図＞

・施設分類毎に地図に表示する（作成イメージは下図を参照）。



【ｉ集計表】　　－

調査項目：10-04　公害の発生状況

■調査目的　　公害の発生状況を把握し、その発生源に関する今後の公害対策の基礎資料とする。

■収集方法

【ａ収集項目】　位置、種類、発生年、発生源、被害面積、被害の概要

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　公害毎

【ｄ収集方法】　・庁内資料から収集。

収集データの例
庁内資料

【ｅ留意事項】　－

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
・複数の原典データを元に作成している場合は項目ごとに分けて記載。 ・一括して同じ場合は「－」を記載。	○庁内資料等の資料名を記載	最新年を記載	適宜記載

※複数の原典データを元に作成している場合は必要に応じて行を追加する。

【ｇ調書】

＜調書＞

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

位置	種類※1	発生年（年）	発生源※2	被害面積※3 (ha)	被害の概要
①					
②					
：					

※１ 公害の種類については、次の通りとする。（大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、地盤沈下、悪臭、土壌汚染、その他）

＜コードリスト＞

コード	公害の種類の説明
1	大気汚染
2	水質汚濁
3	騒音
4	振動
5	地盤沈下
6	悪臭
7	土壌汚染
8	その他

※２ 主たる発生原因と考えられる施設等を記載。

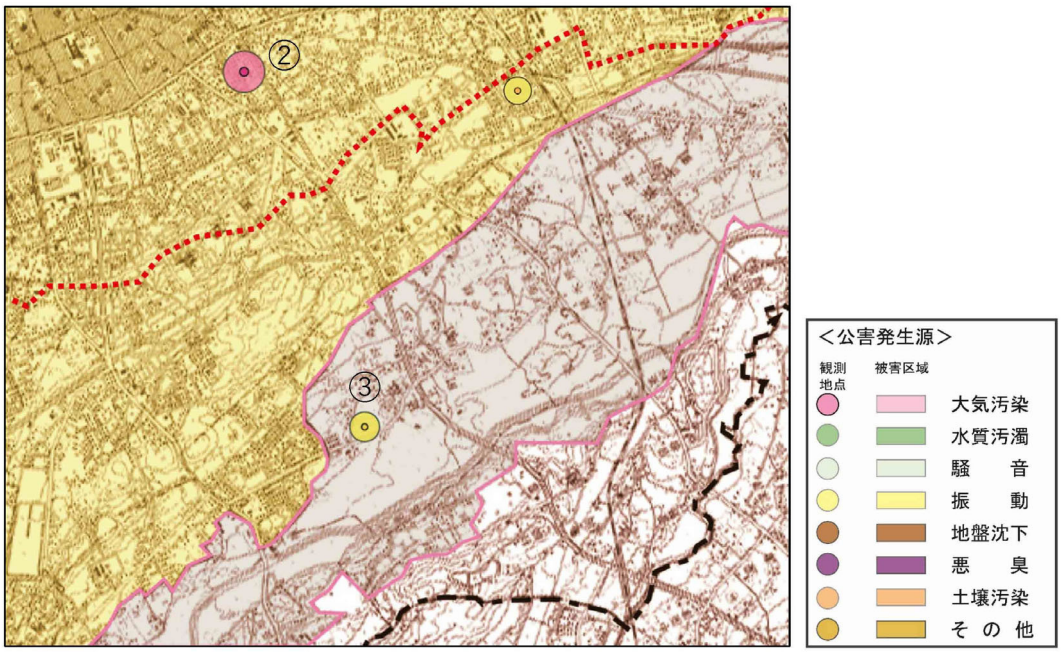
※３ 被害面積が明らかな場合に記載。

【ｈ位置図】

＜位置図＞

・位置図上には、観測地点（ポイント）、被害区域（ポリゴン）を記載する（作成イメージは下図を参照）。

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））



【ｉ集計表】　　－